



CITY OF NAGASAKI

メッセージ

「アースキャラバン 2018」が開催を迎えるにあたり、長崎市民を代表してメッセージをお送りします。

1945年8月9日午前11時2分、長崎の街は一発の原子爆弾により、一瞬にして壊滅的な被害を受けました。7万4千人の尊い命が奪われ、7万5千人が負傷しました。あの日から73年目を迎える現在も、多くの方々が放射線による障害に苦しんでいます。

心と身体に癒やすことのできない深い傷を負った被爆者は、「自分と同じような体験を世界中の誰にも体験させてはならない」と、自らの辛い体験を懸命に語り伝え、核兵器廃絶を訴えてきました。

このような中、被爆者や平和な世界を望む市民社会の長年の願いが実を結び、昨年7月「核兵器禁止条約」が採択されたという知らせに、核兵器廃絶への大きな流れを感じました。このことは、核兵器廃絶を訴え続ける私たちに、これまでの活動は間違っていないと強い確信と、声を発し続ける勇気を与えるものでした。この条約が早期に発効し、国際規範として確立していくためには、市民社会の声を大きくしていく必要があります。

私たち長崎市民は、核兵器のない世界を願う世界の人々と連携して、核兵器廃絶と恒久平和の実現に力を尽くし続けていきます。

「アースキャラバン 2018」を通して、皆様が長崎市民と平和への思いを共有し、今後とも、核兵器廃絶の声を大きく発信していただくことを期待しています。

平成30年7月

長崎市長 田上 富久